

2018年マリン関連ニュースリスト

月	テーマ	内容
1月	JJSBA 2019年から4ストロークエンジン限定に	JJSBA(日本ジェットスキー協会)は、2019年シーズンより2ストロークエンジン搭載機種の廃止し、4ストロークエンジン搭載機種のみレギュレーションを変更して開催することを発表した。
	カヌー鈴木選手、複数選手に妨害行為	昨秋に石川県小松市で行われたカヌー・スプリントの日本選手権で、カヤックシングル(1人乗り)に出場した鈴木康大選手(32)が、ライバルの小松正治選手(25)の飲み物に故意に禁止薬物を混入していたと発表した。鈴木選手は連盟に対し、他の複数の選手にも妨害行為をしたことを認めている。
	「2017 海難防止川柳コンテスト」入賞作決定	第6管区海上保安本部と瀬戸内海海上安全協会の共催による「2017 海難防止川柳コンテスト」の入賞作が、1月18日(118番の日)に発表された。2017年9月1日～11月30日の期間中に1,420句の応募があり、25句が入賞。最優秀賞は、一般部門が中村好徳さん(68歳)の「確認が 人を守って 海を守る」、ジュニア部門は蒲原健太さん(12歳)の「海遊び 約束守り 安全に」が選ばれた。入賞作品は、海難防止を呼びかけるポスターなど、海上保安業務に活用される。
	打瀬舟建造航海プロジェクト、始動	およそ400年前に瀬戸内海で発祥したといわれる打瀬船(うたせぶね)は、帆に受ける風の力を利用して、横に移動しながら底曳き網を曳く伝統的な漁船。この打瀬船を復元し、ハワイまでの航海を目指す「打瀬船建造航海プロジェクト」が山口県で始動。建造を予定しているのは、全長20mを超える大型の愛知型打瀬船で、建造、航海、教育、観光を軸とした“瀬戸内ルネッサンス”を目指している。
	「ボルボ・オーシャンレース(Volvo Ocean Race)」で衝突事故、漁船の乗組員1人死亡	世界一周ヨットレース「ボルボ・オーシャンレース(Volvo Ocean Race)」で、米国・デンマークのチームのヨットが漁船と衝突し、漁船の乗組員1人が死亡した。香港の警察当局がAFPに語ったところによると、漁船の乗組員1人が病院に空路で搬送されたが、その後、死亡した。またこの事故では、他に9人が海から救助された。漁船は中国本土から現場海域に来ていた。
	トランプ氏の「サメ嫌い」でサメ保護団体に寄付金集中	ドナルド・トランプ米大統領は実はサメが大嫌いらしいと報道されたのをきっかけに、サメの国際保護団体を支援する動きが広がった。トランプ氏がサメが嫌いだと伝えたのは、米タブロイド誌インタッチ・ウィークリー。トランプ氏と関係があったとされるポルノ女優ストーミー・ダニエルズ氏が、インタビューで「トランプ氏がサメ保護団体には絶対に寄付しないし、サメは全滅してほしいとダニエルズ氏に話した」と述べた。この報道以来、サメ保護団体は寄付金の急増に気づいたようで、寄付理由には「トランプ」と書いてあるケースもあるという。
2月	「浜名湖うなぎ」を商標登録。浜松ブランド強化	特許庁は30日までに、浜名湖特産の養殖ウナギを地域団体商標「浜名湖うなぎ」として登録する決定を行った。商標は浜名湖地区(浜松、湖西市)の養鰻(ようまん)業を統括する浜名湖養魚漁業協同組合(浜松市西区)が管理し、地元料理店などが使用できる。対象は浜名湖周辺で養殖したウナギのかば焼きと白焼き。同組合が2006年に地域ブランドとして商標登録を出願し、特許庁の審査で浜名湖とウナギの強い関係性が認められた。
	小型船舶で救命胴衣着用を義務化	国土交通省では関係法令を改正し、平成30年2月からすべての小型船舶の乗船者にライフジャケットの着用を義務化。従来は12歳未満の子供や投網など1人で漁をする人などに限っていた。小型船舶からの転落死亡事故が相次いでおり、ライフジャケットの義務化が事故時の生存率を高めるとされている。
	城ヶ島灯台、2月4日に特別公開	「城ヶ島水仙まつり」に合わせて、横須賀海上保安部は、2月4日に城ヶ島灯台(三浦市・城ヶ島)を特別公開した。レンズなど普段は見るできない灯台の心臓部も見学可能とした。城ヶ島灯台は1870年に日本で5番目の近代灯台として初点灯して以来、三浦半島沖を行き交う船の安全を守る役割を果たしている。特別公開では、全国各地の灯台写真展が行われるほか、灯台の仕組みを紹介するブース、子ども向けに海上保安庁の制服を着用できる体験コーナーも設けられた。
	「海洋空間計画」のガイドラインを東京大学海洋アライアンスが作成	海という限られた空間を、将来にわたって、誰がどう使っていくのか。そうした計画を作る際の標準的な道筋を示す「海洋空間計画」の国内向けガイドラインを、東京大学海洋アライアンスのプロジェクトチームが公表した。東京大学で2月16日に開かれたワークショップでは、実際に地元で関係者の利害調整を進めている自治体担当者などから、科学的なデータや信頼関係の大切さを指摘する声が聞かれた。
3月	「C to Sea プロジェクト」のアンバサダーに STU48	国土交通省海事局が子どもや若者をはじめ、幅広い人たちに海や船の楽しさを知ってもらうことを目的に推進する「C to Sea プロジェクト」において、瀬戸内海を中心活動する「STU48」がアンバサダーに任命された。STUのメンバーはこれを機にポート免許を取得。海と船の魅力を伝えるナビゲーション役を担う。
	神奈川のポート遊びポータルサイト「チャーターボートで遊ぶ、かながわの海」開設	かながわ海洋ツーリズム推進協議会では、神奈川県を楽しまるための取り組みの一環として、県内で利用できるチャーターボートやマリナーを紹介する、ポート遊びのポータルサイト「チャーターボートで遊ぶ、かながわの海」を開設した。

30 フィート未満の艇にも設置可能なイタリア製小型ジャイロの輸入開始	神奈川県のパートジャイロジャパンでは、30ft 未満の小型艇にも設置可能な、イタリア・クイック社のアンチロールジャイロスタビライザーの正規日本総輸入元として、正式に調印。小型艇における酔い対策の一助となる製品が輸入されることとなった。
JGFA が釣果のバッグリミットを改定	JGFA(ジャパンゲームフィッシュ協会)では、釣った魚を持ち帰る際の数やサイズを定めた「バッグリミット」を改定。海釣りの主な対象魚の魚種ごとに、サイズや数を見直して、同協会のサイトで公表。強制力のあるものではないが、必要以上の魚を釣らないことで、乱獲による資源減少を防ぐことを釣り人に呼びかけていく。
セイルトレーニングシップ〈みらいへ〉が〈キャプテンドラえもん〉号として運航	『映画ドラえもん のび太の宝島』公開(3月3日～)に合わせて、帆船〈みらいへ〉のセールにドラえもんが描かれた〈新生ドラりん丸 キャプテンドラえもん〉号が乗船体験などを実施。
ハウステンボスに世界初の移動する球体型水上ホテルが登場	長崎県佐世保市のテーマパーク、ハウステンボスに、世界初となる移動式球体型水上ホテルが登場。オクムラボート製で、直径は地球の1/200万にあたる6.4m。機械室、客室、デッキからなり、当面は2艇体制で運用される。
モバイル用アプリ「new pec smart」発売開始	もともとはPC用電子参考図として制作された日本水路協会の「new pec」が、iOS10.0以降のモバイル機器に対応したアプリ「new pec smart」として登場。利用料は月額3,800円(税込み)。なお、10月に行われたアップデートでは、AIS情報の表示機能も搭載した。
産学官連携の無人機による深海探査コンペの決勝に「Team KUROSHIO」が進出	自律型の海中探査ロボットを用いた深海海底マッピングの精度やスピードを競う国際コンペティション「Shell Ocean Discovery XPRIZE」を主催するXPRIZE財団は、3月7日、「Round1 技術評価試験」の結果を発表し、海洋研究開発機構(JAMSTEC)やヤマハ発動機が参画・支援する「Team KUROSHIO(チームクロシオ)」が、2018年11月-12月に行われる「Round2 実海域競技(決勝)」へ進出することとなった。
ヤマハ発動機がプレミアムボート「EXULT 43」新発売	ヤマハ発動機は、洗練されたエクステリアとインテリア、最高レベルの走行性能を兼ね備えたサロンクルーザー「EXULT 43」を、2018年6月1日より発売した。「EXULT 43」は、同社のプレミアムボート「EXULT(イグザルト)」シリーズのフラッグシップとして開発したサロンクルーザー。ガンネルのない「インテグレートッドハル」をさらに熟成させ、美しい曲面を強調した、存在感のある流麗なエクステリアデザインを採用した。サロンルームやオーナーズルームをはじめとするインテリアは、匠の技と高級素材を融合させ、曲線を活用した明るく開放的、かつ気品ある空間。また、フライングブリッジはクラス最大の広さを実現し、10名がゆとりを持って着座できる開放的な空間を演出している。
「ジャパンインターナショナルボートショー」開催	最新のボートや水上オートバイを展示した「ジャパン インターナショナル ボートショー 2018」が、3月8日、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜などで始まった。トヨタ自動車やホンダ、ヤマハ発動機など、四輪や二輪で知られるメーカーも「海」に注力し、新型のボートや船用外付けエンジン(船外機)をアピールした。
ミズノマリナーが津波から命を守る8人乗り救命艇シェルターを発売	2013年に25人乗りの救命艇シェルター「LBS25E」を発表したミズノマリナーが、8人乗りのコンパクトな救命艇シェルター「+CAL8(タスカルエイト)」を発売。大型フェンダー付きの「+CAL8(タスカルエイト)+F」もラインナップ。
ブラインドセーラーの岩本光弘さんが太平洋横断再挑戦を発表	2013年6月、ニュースキャスターの辛坊治郎さんと2人での太平洋横断に挑戦し、福島県いわき市から出航後6日目にクジラに衝突し、リタイアを余儀なくされた、ブラインドセーラーの岩本光弘さん。その岩本さんが、日本で約30年間暮らすダグラス・スミスさんをパートナーに、米サンディエゴから前回の出発地であるいわき市を目指す太平洋横断航海に再チャレンジすることを、ジャパン インターナショナル ボートショー 2018のステージで発表した。
ヤマハ発動機、米にマリン事業の研究拠点	ヤマハ発動機は米ジョージア州に船外機やモーターボートなどのマリン事業の研究開発拠点を開設した。大型の船外機やボートの需要の中心地である米国で顧客のニーズを把握し、操船制御システムなどの開発を強化する。米国の統括子会社、ヤマハ・モーター・コーポレーション USA(ジョージア州ケネソー)に、研究開発部門として1月に「BPS ディビジョン」を設立した。マリン事業では初めての海外の研究開発拠点になる。
ビーチ・マリンスポーツ推進協議会、静岡県浜松市で発足	2018年3月、静岡県の浜松市では、「ビーチ・マリンスポーツの聖地」としてのブランドを確立し、魅力の発信を行うことにより、市民の誇りの醸成や観光誘客を図るとともに、ベンチャーなどの企業誘致や移住促進につなげていくため、官民連携による推進協議会を発足することとなった。
「辺野古のジュゴン環境奪わないで」ドキュメンタリー映画、米で上映	3月24日に米ニューヨークで「ニューヨーク平和映画祭」が開かれ、米軍普天間飛行場の移設先の名護市辺野古沖に生息する絶滅危惧種ジュゴンを追い、失われつつある自然環境に焦点を当てたドキュメンタリー映画「ZAN(ザン) ジュゴンが姿を見せるとき」などが上映された。この作品の製作者によると、米本土での上映は初めて。ジュゴンは沖縄の言葉で「ザン」と呼ばれる。映画は移設に反対するデモ隊のほか、移設を容認せざるをえないという地元住民の声も紹介。

	「ボルボ・オーシャンレース (Volvo Ocean Race)」で〈スカリーワグ〉(ボルボ 65)からクルーが落水 行方不明	ボルボ・オーシャンレースの第7レグにおいて、南氷洋をダウンウインドで帆走中だった〈スカリーワグ〉(VOR65)で、ワイルドジャイブにより、イギリス・サウサンプトン出身で、オーストラリア・アデレード在住のジョン・フィッシャー(47)が落水。〈スカリーワグ〉は天候悪化により、落水発生から2時間後に捜索を打ち切り、レース本部はそれ以前に、他のレース艇に対して捜索援助を要請しないことを決定。これにより、ジョン・フィッシャーは行方不明となってしまった。
	「九州 BAN」サービス開始	会員制ボートレスキューサービス「BAN」のサービスエリアが拡大し、山口県角島灯台～佐賀県肥前宮崎灯台までの響灘、壱岐島を含む玄界灘をカバーする「九州 BAN」のサービスがスタートした。
4月	吉田 愛／吉岡美帆、プリンセスソフィア杯女子470級で優勝	スペイン・マヨルカ島で開催されるプリンセスソフィア杯は、欧州のレースシーズンの幕開けとなるセーリングディンギーの大会。2018年は東京五輪を見据えた世界のトップセーラーが集い、64の国と地域から約1,200人が出場。その中で、女子470級の吉田 愛／吉岡美帆(ベネッセホールディングス)が初優勝を果たした。なお、男子470級では、昨年の同大会で金メダルを獲得した磯崎哲也／高柳 彬(エス・ピー・ネットワーク／日本経済大学)が3位入賞。
	STU48専用の船上劇場、ついに発表	瀬戸内海を拠点とするAKBグループ初の広域アイドルグループ、STU48。その専用劇場を備えた船が、4月14日に開かれたSTU48デビューシングル握手会イベントにてサプライズ発表された。船上劇場を有する〈みかさ〉は、全長77.8m、全幅12.5m。
	浜の助っ人ロボ「マリンドローン」 開発中いけすの監視、給餌、鳥撃退	屋外用ロボット製造の炎(ほむら)重工(岩手県滝沢市)が、海上を自動航行する船舶型ロボット「マリンドローン」の開発に取り組んでいる。養殖用いけすの周囲を巡回し密漁を監視するほか、給餌をしたり海鳥を追い払ったりできる。今秋までに商品化する予定。
	世界で最も美しい湾クラブ 富山での2019年総会を正式決定	富山県は4月20日、富山湾など世界の計43湾が加盟する「世界で最も美しい湾クラブ」の2019年の総会が富山県で開催されると発表した。現地時間19日に行われたフランスでの同クラブの総会で正式に決定した。フランス総会には、石井隆一富山県知事が出席し、プレゼンテーションを行った。富山県総会の日程について10月16～20日開催を提案している。石井知事は「富山県総会の開催を契機として、国際的に富山湾のブランド価値を高め、さらなる観光振興・地域活性化につながるよう取り組んでいきたい」との談話を発表した。
	「C to Sea プロジェクト」の一環 ポータルサイト「海ココ」スタート	子供や若者を含む多くの人々に海や船の楽しさを知ってもらうための官民一体の取り組み「C to Sea プロジェクト」。このプロジェクトの一環として、海に関するポータルサイト「海ココ」がオープン。海の仕事、海の駅、クルーズ、グルメ、水族館、博物館など、海や船に関するあらゆる情報にアクセスできることを目指している。
5月	ヨットで弁才船の航跡をたどる 「あきない夢まち港 弁才船の航跡」を実施	江戸期に日本の海運を担った弁才船の航跡を巡り、当時の海運や文化の伝播を探る航海、「あきない夢まち港 弁才船の航跡」が、明治150年記念プロジェクトの一環として実施された。航海を行ったのは、一般社団法人 港まちづくり協議会大阪内に置かれた実行委員会のメンバー13人。なお、このメンバーは、実物大の復元菱垣廻船〈浪華丸〉(現在閉館中のなにわの海の時空館に展示中)を建造する際に試作した1/3の船体部分モデルを元にした、浪華丸を復元する「菱垣廻船復元プロジェクト」にも携わっている。
	「第3期海洋基本計画」閣議決定	2018年5月。「海洋に関する国民の理解の増進」の中で、マリンレジャーの普及や理解増進等の多様な取り組みを、産学官等で連携・協力の下、実施する(文部科学省、国土交通省)ことが盛り込まれている。
	日本酒やワイン 波に揺れ味まろやかに 太平洋で海中熟成	岩手県陸前高田市の広田湾で地酒を海中熟成する取り組みが始まった。広田湾遊漁船組合と海産物開発などを手掛ける合同会社「ぶらり気仙」が中心になって企画した。業種の垣根を越え、東日本大震災で打撃を受けた地域経済を立て直そうという試みだ。市内で醸造された「酔仙酒造」の日本酒と「神田葡萄(ぶどう)園」のワイン計750本を養殖いかだにつるす。波の揺れで熟成が進み、味がまろやかになるという。
	19、20歳が対象 マリンアクティビティを無料で体験できる 「海マジ！」サービス開始	リクルートライフスタイルでは、若年層を対象とした屋外アクティビティ施設の一部料金無料化サービス「マジ☆部」を展開中。これは、20歳までに経験したスポーツやレジャーは、その後、長年にわたって愛好する傾向があるとの統計データに基づき、若者にさまざまな楽しみを知ってもらい、各ジャンルの愛好者を増やすための試みだ。その一環として、19、20歳のマリンアクティビティ無料体験を提供する「海マジ！」をスタート。クルージング、セーリング、SUP、釣りなどのメニューが用意されている。
	ヤマハ最大馬力モデル 船外機「F425A」を発売	ヤマハ発動機が同社製としては最大馬力となる4ストローク船外機「F425A」を発売した。V型8気筒、排気量5,559cm ³ 、最高出力425馬力の新開発のエンジンを採用した船外機で、「ダイレクトフューエルインジェクション」や「電動ステアリング」を初めて導入した。また、同船外機は後に開催された国際マリントレードショー「IBEX2018 (The International Boat Builders' Exhibition & Conference)」において、米国舟艇工

		業会 (NMMA: National Marine Manufacturers Association) のイノベーションアワードを受賞している。
	宮城県・閑上ヨットハーバーで、震災後初のレース、北日本オープンヨット選手権を開催	東日本大震災の津波被害により閉鎖を余儀なくされていた宮城県名取市の閑上(ゆりあげ)ヨットハーバーで、震災から7年を経て、初のヨットレース「北日本オープンヨット選手権」が開催された。このレースは、学生が中心となって企画・運営しているもので、東北のみならず、北海道、新潟からの参加もあり、470級28艇、スナイプ級15艇(社会人4艇、学生39艇)、総勢120人が集結し、予定通り全6レースを消化。宮城県のみならず、東北全体のセーリング界の再スタートの一翼を担った。
	ボルボ、「オーシャン・レース」から撤退へ… 20年の歴史に幕	ボルボカーズとボルボグループ(商用車)は5月31日、「ボルボ・オーシャン・レース」から撤退すると発表した。ボルボカーズとボルボグループは過去20年にわたって、ボルボ・オーシャン・レースを主催してきた。しかし今回、同レースからの撤退を発表。次回の2021年から、アトランティック・オーシャン・レーシング・スペインが、このレースを主催していく。ボルボカーズのビョルン・アンウォール上級副社長は、「20年が経過し、この有名なレースの責任を、経験と能力を備えた新しいオーナーに引き継ぐ時が来た」と述べている。
6月	日本ミドルボート協会が JSAFの特別加盟団体として正式登録	1月27日に設立された日本ミドルボート協会が、国内に置けるセーリングスポーツの統括団体であるJSAF(日本セーリング連盟)の特別加盟団体として正式に登録された。ミドルボートとは日本独自のクラスで、IORレーティングにおける1/2トン、3/4トンクラスの艇を指し、同協会の規約では「モノハル艇全長8.9m以上11m未満」と規定。これまで、関東、東海、関西、九州と、地域ごとに活動してきた同クラスの活動が、一元的に行われることになる。
	石原裕次郎の愛艇〈コンテッサⅢ〉 小樽港マリーナへ移設し、継続展示	故 石原裕次郎の愛艇で、2017年8月に閉館した北海道小樽市の石原裕次郎記念館で屋外展示されていたヨット、〈コンテッサⅢ〉が、同記念館に隣接する小樽港マリーナに移設され、レストランを経たのちに継続展示されることが決定。6月9日には、移設記念式典が開催された。
	「クリッパー・ラウンドザ・ワールド 2017-2018」に 日本人主婦セーラー 上田まやさんが搭乗しレースを完走	1996年にイギリスのロビン・ノックスジョンストン卿によって創設されたクリッパー・ラウンドザワールドレースは、ワンデザインのクリッパー70を用いて、2年に一度開催される世界一周レース。1艇に1人のプロのスキッパーと、20人程度の公募クルーが乗り込むというスタイルで、クルーは参加レグを選択可能。トレーニングに参加すれば、経験の浅いセーラーでも世界一周を目指せる。今回参加したのは全12チーム、700人強。そのうち、〈サンヤセレンティーコースト〉の一員として、シアトルからパナマ運河を経てニューヨークへ至る約6週間の第7レグに参加したのが、日本人の上田まやさん。レース中は、マザーデューティー(炊事係)やスピנקロスの補修などのほか、ヘルムやグラインダーなど、あらゆる役割を持ち回りでこなした。なお、〈サンヤ〉は、上田さんが搭乗した第7レグで2位。その後の第8レグでスタート地であるイギリス・リバプールに到着し、このレースでは初の女性スキッパーによる優勝艇となった。
	YMFS ジュニアヨットスクール葉山 創立40周年	公益財団法人 ヤマハ発動機スポーツ振興財団(YMFS)が主催・管理・運営するヤマハジュニアヨットスクール葉山では、今年創立40周年を迎え、6月23日(土)に練習会場である葉山マリーナにて「創立40周年記念イベント」を開催。開校以来、約500名の卒業生を送り出し、多くの指導者や支援者、保護者らに支えられてこの節目の年を迎えた。
	東京湾でクジラの見撃情報相次ぐ	東京湾でクジラの見撃情報が相次いだ。第3管区海上保安本部によると、最初にクジラの見撃情報が寄せられたのは6月18日。東京ゲートブリッジ近くの葛西臨海公園(東京都江戸川区)沖を航行する漁船の漁師から、「体長約15メートルのクジラを見つけた」という通報が東京海上保安部に寄せられたという。釣り船船長の内木章人さん(47)は6月24日、東京湾アクアラインの海ほたるパーキングエリアから北数キロを航行中に目撃。「1頭が十数回、ジャンプを繰り返しているのが見えた」と話した。3管によると、18日以降、クジラの見撃情報が計10件寄せられた。クジラの頭数や種類などは分かっておらず、3管は付近の船舶に衝突に気をつけるように呼びかけている。
	サクラエビ春漁漁獲、最低更新 「生態系構造転換」指摘も	当初の終了予定から6日前倒して終了した駿河湾特産サクラエビの春漁。水揚げ量、売上高はともに記録が残る1986年以降で最低を更新した。禁漁期間の前倒しで資源回復に期待がかかる一方、専門家からは「レジームシフト(生態系の構造転換)が起こった可能性がある」との指摘も上がる。

	初島ダブルハンドヨットレース 2018 30周年の記念大会を開催	神奈川県 <small>の</small> 逗子沖からスタートして、相模湾の初島を回航する往復 46 マイルを、2 人だけで帆走するクルーザーレース「初島ダブルハンドヨットレース」が 30 周年を迎えた。89 艇が参加した今回のレースでは、〈ブラックジャック〉(ベイクウェルホワイト 42)が、所要時間 6 時間 13 秒のコースレコードでファーストホーム。また、リタイアをのぞくすべての参加艇が 16 時台にフィニッシュしたことも大会史上初となった。
	ゴールドデングローブ単独世界一周レース 1968 年開催当時のまま復活	1968～1969 年に開催された世界初の単独無寄港世界一周レース「第一回ゴールドデングローブ」では、313 日間にわたる航海を行って勝者となった〈スハイリ〉のロビン・ノックスジョンストンが伝説の人物となった。このレース当時と同じ条件を再現するという精神のもと、7 月 1 日にフランスのレ・サブル＝ドロンヌをスタートしたのが、第 2 回となる 2018-2019 ゴールドデングローブ単独世界一周レースだ。使用艇の全長は 32～36ft で、ロングキール仕様、調理には旧式のケロシンストーブを使用し、ナビゲーションは伝統的な六分儀と天測暦を用いて紙海図にプロットして行う。参加者は基本的に電子機器(電卓やデジタル時計、CD プレーヤーなど)の使用を禁じられ、緊急時のみ開く衛星電話と GPS のパッケージを所持しているのみ。また、航海中の記録には、フィルム式カメラを使い、タイプライターか手書きでログを記録するなど、極めて徹底したレギュレーションが課されている。しかしながら、10 月の段階で参加 18 艇の 50%がリタイアしている。
	日露戦争で沈没したロシアの巡洋艦発見 韓国領沖の海底で	日露戦争中の 1905 年の日本海海戦で沈没したロシア海軍の巡洋艦「ドミトリー・ドンスコイ」が日本海の韓国領・鬱陵島沖の海底で見つかったと韓国企業「シニルグループ」が 17 日発表した。ロシア新聞などが報じた。発表によると、見つかったのは同島から 1・3 キロ沖の深さ 434 メートルの海底で、船尾にある艦名を確認したという。船体は砲弾により激しく損傷しているが、甲板の状態は良く、船体の引き揚げも計画している。
7 月	日本初のプライベートサブマリン 小型潜水艇「JAPANG」販売開始	大洋産業貿易が製造し、AOI ホールディングスが販売する、初の国産小型潜水艇「JAPANG(ジパング)」が 7 月 19 日、神奈川県のリビエラ逗子マリーナでお披露目され、同日より販売開始された。構想から製品化まで 17 年の年月をかけた同艇は、「体をぬらさずに海中ドライブを楽しむ、アンダーウォータースポーツカー」というコンセプトのもと、設計・構成から製造に至るまで、すべて日本国内で手がけた。また、職人による金箔での装飾を施すなど、日本製であることを強調。また、小型潜水艇としては珍しいウォータージェット推進の採用により、水中、水面での高い運動性能を発揮する。
	西日本豪雨で水上オートバイが 120 名を救助	西日本豪雨で甚大な浸水被害を受けた岡山県倉敷市真備町で、多くの住民が取り残される中、同町出身の若者が水上オートバイ(PWC)で約 15 時間にわたり、約 120 人を救助した。救助された住民たちから命の恩人として感謝されている。岡山県総社市の建設業、内藤翔一さん(29)は、同じ真備町出身の後輩で岡山市に住む上森圭祐さん(25)から電話で頼まれた。母親の救助を頼まれた。地元の浸水被害に、内藤さんは「なんかできんか」と思っていた矢先で、趣味で水上オートバイに乗ることがあり、免許も持っていたこともあり水上オートバイを友人から借りて出発。午前 4 時までには計 120 人ほどを避難先に運んだ。途中から、避難先の森泉寺には内藤さんの後輩数人が集まり、バイクから住民を降ろす作業などを手伝ったほか、内藤さんに母親を救助してもらった上森さんも町に駆けつけ、7 日昼過ぎから深夜まで釣り用のボートで救出にあたり、約 100 人を避難させた。
	ゲノム編集で肉厚に 近大がマッスルマダイの量産化に目処	世界初のクロマグロ完全養殖で知られる近畿大学水産研究所(和歌山県白浜町)が、最新の遺伝子改変技術「ゲノム編集」を使い、筋肉量を 1.2 倍に増やしたマダイの量産にめどを付けた。この「マッスルマダイ」は可食部分が従来の 1.2 倍に増え、実用化されれば高級魚がより身近になる。実際に市場に出回るかどうかは国で議論中の規制次第だが、近大は実用化を見据え、安全性の確認などを進める考え。
	中国製の小型ジャイロスタビライザー 「ジウテック」販売開始	兵庫県神戸市でマリショップを運営するトップウォータータックルズが、中国・上海のジウテック社と独占販売契約を締結し、同社のジャイロスタビライザーの販売を開始。30 フィートかつ総トン数 5 トン未満の小型艇に搭載できる「JW-1」は、起動電力 800W、運航時は 500～800W。このほかにも、最大 75 フィートかつ総トン数約 60 トン用の JW-15 まで、7 モデルをラインナップする。
8 月	海遊びをサポートするマップアプリ 「ankaa map」リリース	瀬戸内海エリアでプレジャーボートのシェアサービス「ankaa」を運営するアルファフェニックスが、海遊び、フネ遊びの情報共有マップアプリ「ankaa map」をリリース。全国各地のマリーナや海の駅だけでなく、利用可能な棧橋、岸壁、漁港など、クルージングに必要な基本情報を提供。寄港地周辺の食事処や宿泊施設なども表示される。
	五十嵐カノア、US オープン 2 連覇!	世界最大規模のサーフィンコンテストであるカリフォルニアハンティントンビーチで行われた US オープンで、五十嵐カノアが昨年に続き優勝して 2 連覇を達成。
	セーリング世界選手権 女子 470 級で 吉田・吉岡組が日本勢初 V	セーリングの世界選手権は 9 日、デンマークのオーフスで行われ、女子 470 級でリオデジャネイロ五輪 5 位の吉田愛／吉岡美帆組(ベネッセ)が上位 10 艇による最終レースを終え、優勝を果たした。日本セーリング連盟によると、この種目の日本勢の優勝は五輪、世界選手権を通じて初めて。

	ついにオープン！東京・品川大井町の人工サーフィン施設「citywave Tokyo」	東京・大井町に複合スポーツエンターテインメント施設「スポル品川大井町」が、8月11日にオープンした。人工ウェーブの発生するサーフィン施設をはじめ、テニスやバスケットボール、フットサルのコート、アーチェリーやボルダリングの施設など、約2万4000平方メートルの広大なスペースに8種類の競技を含む計13の施設が完備されている。
	第59回全国高等学校ヨット選手権大会で新種目レーザーラジアル級が登場	高校ヨット部以外で活動するユース世代が出場しやすい種目構成にするという理念に基づき、採用艇種がFJ級からレーザーラジアル級に変更となって初となる第59回インターハイが、和歌山セーリングクラブで開催された。新種目のレーザーラジアル級は、57艇のチャーター艇が用意され、選手らはセールのみ持ち込めばレースに参加できる。また、同一高校で出場する上位2艇のポイントを合算して競う団体種目「コンバインド」も導入された。
	海のプラスチックごみ問題が深刻化 OECDとUNEPが報告書	海のプラスチック問題の深刻化を裏付けるデータを盛り込んだ報告書を経済協力開発機構(OECD)がまとめた。報告書によれば世界でプラスチックごみの生産量は増加を続け、年間3億トンを超え、海に流出する量も最大推定量が年間1200万トンに及ぶ。さらにプラスチックごみを飲み込んだ魚介類を通じて人間の健康を脅かすリスクがあると警告している。国連環境計画(UNEP)も、プラスチック製品の生産禁止を含めた何らかの規制を導入済みの国が67カ国・地域を数えるなどと指摘し、各国に対策を促す報告書をまとめている。アジア太平洋地域の海でサンゴ礁に引っ掛かったプラスチックごみの問題も指摘されている。
	海の中で10時間 クルーズ船から落ちた英女性を救助	18日の深夜午前零時ごろに、沿岸から約97キロを進んでいた船から英国人のケイ・ロングスタッフさん(46)が落ちた。救助された後、クロアチア沿岸の町、プーラにある病院で手当を受けた。沿岸警備隊の救助船ツァブタット号から降りた際にメディア取材を受けたロングスタッフさんは、船尾から海に落ちたと話し、「生きているのはとても幸運」だと語った。クロアチアのテレビ局HRTに対しロングスタッフさんは、「海の中に10時間いました。素晴らしい人たちに助けもらった」と隊員たちを称賛した。
	第18回アジア競技大会のカヌー・スラロームで羽根田卓也、矢澤亜紀が金メダルを獲得	インドネシア・ジャワ島のチルボンで開催された、アジア競技大会のカヌー・スラロームで、男子カナディアン・シングルの羽根田卓也選手と、女子カヤック・シングルの矢澤亜紀選手が、それぞれ金メダルを獲得。このほか、スラローム、スプリントのいずれでも、複数のメダルを獲得し、2020年の東京五輪に向けて弾みがついた大会となった。
	第71回全日本スナイプ級ヨット選手権で白石潤一郎／上田真聖が史上初の6度目の優勝を達成	福岡市ヨットハーバーで開催された全日本スナイプ級ヨット選手権は、78艇がエントリー。白石潤一郎選手は、高校時代に博多湾でセーリングを覚えた地元出身選手で、これまでの故 甲斐 幸選手の記録を破る自身6度目の全日本優勝を成し遂げた。
	ウェイクボード世界選手権 徳島県三好市で開催	徳島県三好市の池田湖で、「30回記念大会 WWA ウェイクボード世界選手権大会2018」が開催され、国内外の有力選手約200人が集結した。
	ヤンマーが第36回アメリカズカップのオフィシャル・マリンサプライヤーに	ヤンマーが、2021年にニュージーランド・オークランドで開催される、第36回アメリカズカップのオフィシャル・マリン・サプライヤーに決定した。これまでもアメリカズカップを支えるスポンサーのひとつでもあったヤンマーは、前大会では、公式スポンサーに加え、オラクルUSAとテクニカルパートナー契約を締結。同チームのチェイスボート〈YANMAR 1〉のエンジンとして、「ヤンマー8LV マリンディーゼルエンジン」を提供し、チームを支えた実績がある。
9月	台風被害相次ぐ	8月～9月にかけて日本に上陸した4つの台風は15号、20号、21号、24号。9月30日に和歌山県に上陸した台風24号は、東海地方を縦断し、首都圏のJRや私鉄が計画運休を実施するなど影響が広がった。
	灯台150周年を記念した特殊切手が発売	日本初の洋式灯台として建造された神奈川県横浜市の観音崎灯台。その完成から150周年の節目となった2018年に、灯台150周年の特殊切手が日本郵便から発売された。絵柄として収録されたのは、観音崎、神子元島、室戸岬、部崎、観音崎(初代)の5つ。価格は1シート820円。
	台風21号の影響で 全長89mのタンカー関空連絡橋に衝突	9月4日に関西圏を直撃した台風21号の強風で、関西国際空港と対岸を結ぶ連絡橋にタンカーが衝突した。損傷した箇所は12月初旬現在も片側車線での対面通行となっており、完全復旧は来年のゴールデンウィーク前になる。
	無人自走ボート〈SB Met〉 80日間で大西洋横断に成功	全長2m、ソーラーパネルを搭載し、その電力でウイングセールとラダーを自動操作することにより、3～30ktの風域に対応可能な小型の無人自走ボート(セールドローン)が、ニューファンドランドからアイルランドまでの5,000キロを超える航海を、帆走により80日間で達成した。ウェールズとフランスの大学に籍を置く2人の科学者が、2005年に「マイクロ・トランサット・チャレンジ」(無人自走ボートによる大西洋横断レース)というアイデアを思いつき、大学や研究機関、先進技術を持つ会社が製作したボートによって、2010年から2017年の間に22回の挑戦をしたものの果たせなかった。今回成功した〈SB Met〉を製作したのは、ノルウェーの企業、オフショア・センシングAS。

<p>レクサス初のラグジュアリーヨット 「レクサス LY650」市販を発表</p>	<p>トヨタ自動車が開発する高級車ブランドのレクサスが、ブランド史上初となるラグジュアリーモーターヨット「レクサス LY650」を発表した。2017年に同ブランドが発表して話題を呼んだ、「レクサススポーツヨットコンセプト」の流れをくむ流麗なデザインが美しい。建造はアメリカのマーキーズヨット。</p>
<p>神奈川県・江の島で初のセーリングワールドカップ(WSC)シリーズを開催</p>	<p>WSC(セーリングワールドカップシリーズ)は、五輪クラス全10種目によるシリーズレガッタで、年間4戦を世界各国で転戦し、シリーズ王者を決める大会。江の島大会は、2019年のシリーズ第1戦で、2019年1～6月に第2～最終戦が行われる。2020年の東京五輪セーリング競技と同じ会場ということもあり、世界トップクラスのセーラーが多数集結。その中で、男子470級の岡田／外園組が金メダルを獲得した。運営側も2020年大会のテストイベントとして今大会の運営を行った。</p>
<p>江の島セーリングW杯でイルカショー 国際連盟が「失望」表明</p>	<p>東京・江の島で、2020年東京五輪に向けたテスト大会となるWSC(セーリングワールドカップシリーズ)が開催された際、開会式でイルカショーが披露されたことに批判が集まり、同競技を統括する国際セーリング連盟(World Sailing)は11日、「失望」を表明した。イルカショーは動物愛護団体から、残酷な搾取行為として非難されている。問題となった今回のショーは9日、選手や関係者ら数百人が出席した開会式の中で披露された。</p>
<p>セーリングのスマホゲーム「Wind Racer」を開発</p>	<p>岩崎学園横浜デジタルアーツ専門学校(神奈川県横浜市)がスマートフォン(スマホ)向けセーリングゲームを開発した。スマホを傾けるだけで簡単に艇を操作でき、ゲームを通じてセーリングに興味を持ってもらう狙い。江の島(神奈川県藤沢市)で16日に開催予定のWSC(セーリングワールドカップシリーズ)決勝の会場で公開する。ゲーム名は「Wind Racer」。アプリをダウンロードして無料で楽しめる。セーリングは帆が受ける風を動力源に海上の指定されたルートを走るスピードを競う競技。ゲームではコンピューターが操る3艇が相手になる。同学園は16年に県と五輪に向けたスポーツ振興などの分野で協定を締結、学生を中心に開発を進めていた。</p>
<p>岡田・外園組が優勝 セーリングW杯、日本男子で初</p>	<p>2020年東京五輪のテスト大会を兼ねたWSC(セーリングワールドカップシリーズ)江の島大会最終日は9月16日、十分な風が吹かなかったために神奈川県江の島ヨットハーバー沖で予定されていた男女470級の最終レースが中止となり、第8レースを終えて首位に立っていた男子の岡田奎樹／外園潤平組(トヨタ自動車東日本／JR九州)の優勝が決まった。日本セーリング連盟によると、W杯での日本男子の優勝は初めて。</p>
<p>キャプテン・クックの船発見か 米東部、18世紀太平洋航海</p>	<p>英国人探検家ジェームズ・クック(通称キャプテン・クック、1728～79年)が太平洋の航海に使ったとみられる船の残骸が、米東部ロードアイランド州沖の海中で、同州の海洋考古学団体によって発見された。</p>
<p>ISA ワールドサーフィンゲームスにて五十嵐カノアが 日本人初の銀！団体で金メダルを獲得</p>	<p>伊良湖・ロングビーチで開催されていた「ISA ワールドサーフィンゲームス」の全スケジュールが終了した。男子決勝で優勝候補の五十嵐カノア(20)が13.67点で準優勝。WGでは男女を通じて日本勢として初めて表彰台に立った。また最終日の結果を受け、国別順位は日本が1位。ISA史上はじめての団体金メダルに輝いた。</p>
<p>海保、北太平洋の海図を改訂 10年ぶり、芭蕉の名も</p>	<p>海上保安庁は28日、日本周辺の北太平洋の海図を10年ぶりに改訂したと発表した。縮尺250万分の1で、東京湾から台湾の南方付近までの範囲を収めている。海洋調査で集めた水深や海底地形の最新データを盛り込んでおり、航海計画などに活用される。海保は「高性能な機器による測量で、より正確に描くことができた」としている。海保によると、海図には、国際会議で最近認められた南西諸島の南側にある「芭蕉海山」や「子規海山」など、文学史上の人物にちなんだ海底地形の名称が新たに加えられた。</p>
<p>中国のイルカやシャチのショーに欧米から批判 マリナー急増で</p>	<p>屋内に設置された明るい水色のプールから、8頭のシロイルカが尾ビレをひるがえし、大きな水しぶきをたてて、一斉にジャンプした。満員の観客は大喜びで拍手し、写真を撮影している。中国南部の海沿いの町、珠海にある珠海長隆海洋王国で行われているこうしたイルカショーが、いま中国全土に新設されているマリナーで広がっており、希少な海洋生物に対する需要が急増していると、科学者や実業家、活動家が指摘している。</p>
<p>最先端のデータ分析技術でセーリングの競技力向上 観戦者にも分かりやすく</p>	<p>2020年東京五輪で注目されるセーリングは、先端技術の勝負でもある。以前なら陸地から判別しづらかった船の動きや順位、風向きなどが、今ではインターネット上で瞬時に把握できる。観客は観戦をより楽しむことができるだけでなく、選手が練習時に活用することで、競技力向上にもつながっている。8月の世界選手権では女子470級で吉田 愛／吉岡美帆組(ベネッセ)が優勝し、東京五輪セーリング競技でのメダル獲得への期待度は高まっている。東京五輪のテスト大会を兼ねて9月9日から16日まで行われたWSC(セーリングワールドカップシリーズ)江の島大会では、最新のデータ分析技術が採用された。</p>

	岡崎造船 3 代目・岡崎嘉博建造の名艇〈翔鷗〉をレストア、4 代目岡崎英範が完成	1986 年進水の 60ft スループ、名艇〈翔鷗〉。岡崎造船 3 代目、故 岡崎嘉博氏の手による傑作である。〈翔鷗〉は、カモメの船長さんこと、故 能崎知文氏とともに歴史を作り、現在は CF ネットが管理運行する。このレストアが 2017 年に始まり、2018 年秋、完成した。父・嘉博氏の仕事を息子・英範氏が受け継ぐ。親から子へ受け継がれる、岡崎造船が守る造船技術のバトンは、『Kazi』誌などに取り上げられ感動を呼んだ。
	北海道島牧村の保育所に津波救命艇 42 人乗船可能、道内自治体で初	島牧村は 8 日、津波救命艇を同村豊平の村立島牧保育所に配備した。大津波襲来時に保育所の幼児らが乗り込んで避難することを想定している。村によると道内自治体の導入は初めて。救命艇は全長 8.7 メートル、幅 3.5 メートル、高さ 3.1 メートルで繊維強化プラスチック製。周りには船体を保護する緩衝材が取り付けられている。最大 42 人が乗船でき、1 週間分の飲料水や非常食を備える。自力で航行できないが、位置を知らせる信号を発信して救助を求めることができる。価格は約 1 千万円で、大阪府内の造船所から保育所敷地に運び込まれた。
	SailGP 採用艇、F50 シミュレーター完成	アルテミス・テクノロジーズ(第 35 回 AC 挑戦チーム、アルテミスレーシングが前身)が、SailGP 採用艇、フォイリングカタマラン F50 のシミュレーターを完成させ、ロンドンで稼働させた。CEO はイアン・パーシー、開発コミッショナー兼テストドライバーは、元アルテミスレーシングのヘルムスマン、ネイサン・アウトリッジ(SailGP 日本チームスキッパー)。スキッパー、フライトコントローラー、ウイングトリマーの 3 人の搭乗が可能で、さまざまな条件下でのフォイリングをシミュレートできる。ハードウイングを装着したフォイリングカタマランは、ドッグアウトのたびに巨大クレーンによる艀装が必要な代物。一度浮かせたとしても、天候などによって練習時間は限られる。そこで、完成したシミュレーターによって、フォイリング未経験のセーラーでも、安全に、天候に左右されず、さらに経済的に練習ができるというものだ。もちろん、大きな事故につながるフォイリング艇のノックダウンに関しても、ギリギリを攻めた検証が可能になると期待される。
10 月	福井国体セーリング競技で運営艇が沈没	福井国体セーリング競技の成年男子 470 級の第 2 レース中に、報道艇の漁船(4 トン)と運営艇のプレジャーボート(2.8 トン)が衝突し、運営艇が沈没した。報道艇には報道関係者や視察員ら 6 人、運営艇には大会関係者 4 人が乗船していた模様で、報道艇の船首と運営艇の左舷後方が衝突し、運営艇の船体に穴が空き、運営艇は自走不能となり沈没した。運営艇に乗っていた大会役員の 18 歳と 22 歳の大学生 2 人が軽傷を負ったが、選手やレースに影響はなかった。報道艇は所有者が操縦し、運営艇は大学生が操縦していたとのことで、報道艇は当時、レースの様子を撮影するため報道関係者を乗せて運航していた。運営艇は海上に目印を設置するなどの役割を担っていた。
	五島産業汽船、全航路を休廃止 五島列島	長崎県の五島列島と長崎市や佐世保市などを結ぶ旅客船を運航する五島産業汽船(長崎県新上五島町)が全 4 航路を休廃止したことが 2 日、明らかになった。年間 19 万人前後の乗客が利用していたもようで、日常の足として使っていた五島市や新上五島町の住民の生活に影響を与えそう。
	小型衛星コミュニケーター ガーミン「インリーチ ミニ」発売	携帯電話が使えないエリアでも、人工衛星経由でのテキストメッセージの送受信や緊急時の SOS(位置情報とメッセージ)発信が可能なハンドヘルド衛星コミュニケーター、ガーミン「インリーチ ミニ」が発売された。プレジャーボートなどでの万が一の備えとしても有効だ。
	セーリングのプロリーグ SailGP の 2019 年開幕を発表	第 35 回アメリカズカップ(2017 年大会)採用艇「AC50」をリファインした F50 を使用するワールドサーキット、「SailGP」の開催が発表された。ウイングセール、ダガーfoil、ラダーfoilを備えたフォイリングカタマランで競う。これまで困難だったダガーコントロールなどは、電動油圧を採用し、グラインディングの戦いではなく、純粋にフォイリングセーリングの技術を競うスポーツに昇華されている。2019 年シドニー大会を皮切りに、世界を転戦する。日本チーム参戦が発表されたことで、日本開催の夢も現実に向けて動き出している。第 35 回アメリカズカップの防衛艇、オラクル・チーム USA を運営していたラリー・エリソンとラッセル・クーツが共同で経営。イギリス、フランス、オーストラリア、アメリカ、中国、日本の 6 チームが、AC50 からさらにパワーアップしたハードウイング(硬質翼)を装備したフォイリングカタマラン F50 で、世界を転戦するもので、2019 年は 2~9 月にオーストラリア、アメリカ(サンフランシスコ、ニューヨーク)、イギリス、フランスでの全 5 戦を予定。大会 CEO のラッセル・クーツは、「SailGP は、セーリングをサッカーやバスケットボールなどのメジャースポーツと同じく、視聴者に感動と興奮を与えるスポーツ競技へと革新することを目指す」とコメント。
	築地市場閉場、83 年の歴史に幕	83 年の歴史を持つ築地市場(東京・中央)が 6 日、閉場する。食の中核市場は 11 日に開く豊洲市場(東京・江東)へと引き継がれる。土壌汚染問題や政治に翻弄され、移転への道は険しかった。

	ヤマハ発動機の船外機「F425A」が 米国でイノベーションアワードを受賞	ヤマハ発動機のラインアップの中で最大馬力となる 425 馬力の 4 ストローク船外機「F425A」が、2018 年 10 月 2 日から 4 日にかけて米国フロリダ州タンパで開催された国際マリントレードショー「IBEX2018(The International Boat Builders' Exhibition & Conference)」において、米国舟艇工業会(NMMA: National Marine Manufacturers Association)のイノベーションアワードを受賞した。イノベーションアワードは、米国舟艇工業会が主催する IBEX において、「船舶製造技術/素材部門」「メカニカルシステム部門」「船外機部門」など計 13 部門別に毎年審査・発表され、審査は専門知識に秀でたボートングライターズインターナショナル(BWI)のメンバーから選出された審査員によって行われる。
	豊洲市場 開場	豊洲市場(東京・江東)が 11 月 11 日、開場した。周辺道路で渋滞が発生したが、取引に大きな混乱はなかった。初日のセリはご祝儀相場に沸き、市場関係者は変わらぬ活気に安心した表情を見せた。旧築地市場(同・中央)のにぎわいを引き継いだ「首都圏の台所」として船出した。
	2018 ハンザクラスワールド & インターナショナルチャンピオンシップ 広島でアジア初開催	前を向いて座り、ジョイスティックで操船するハンザクラスは、ハンディキャップの有無にかかわらず、同じようにセーリングが楽しめる艇種。そのハンザクラスの国際大会が、アジア圏では初めて、広島県の広島観音(かんおん)マリーナで開催され、148 艇が参加。2020 年東京パラリンピックではセーリング競技が実施されないことから、同クラスの国際大会が日本で開催される貴重な機会となった。
	引きこもりを経験したカヌー冒険家が、カナダへ一人旅	20 代で統合失調症と診断され、10 年近く引きこもり生活を送った千葉の男性が、14 年前からほぼ毎夏、カナダ北極圏などでカヌーの一人旅を続けている。多様な価値観の中で自分らしく生きる喜びを知った。「人生はみな同じじゃない。型にはめずに生きて」。会員制交流サイト(SNS)で日々の思いを発信している。
	海上保安庁が 「ウォーターセーフティガイドミニポート編」公開	海上保安庁では、業界の関連団体や企業と協力し、普及に伴って事故が増えつつあるミニポート(免許、船舶検査不要艇)の安全啓発を目的に、関連情報をまとめたサイト、「ウォーターセーフティガイド ミニポート編」を公開した。
	2019-2020 日本-パラオ親善ヨットレースの開催を発表	日本とのゆかりが深いパラオ共和国が 2019 年に独立 25 周年を迎えることを記念して行われる、長距離外洋レースの開催が発表された。2019 年 12 月 29 日、横浜ベイブリッジをスタートラインとし、直線距離で 1,935 マイル離れたパラオのフィニッシュラインを目指す計画。スタート前日には、横浜港内でのプレレースや、レース期間中のクルージングイベントも検討中とのこと。
	東京湾大感謝祭 2018 で 東京湾に約 70 年ぶりとなる 水陸両用飛行機の着水が実現	東京湾の環境改善に向けた行動の環を広げることを目的とした東京湾大感謝祭。6 回目となる 2018 年のイベントでは、2 日間で過去最多となる 10 万 5 千人が来場。会場の神奈川県・横浜赤レンガ倉庫前の海面では、海上保安庁の特殊救難隊による救助のデモンストレーションが行われたほか、広島県から「せとうち SEAPLANES」の水陸両用飛行機「KODIAK 100」が飛来し、東京湾では 1945 年以來の水陸機着水となった。
	科学調査船(tara)が 2 年半の太平洋調査プロジェクトを終えて帰港	アニエスベーがサポートする科学調査船(タラ)号が、地球の 40%のサンゴ礁がある太平洋を 2 年半の間航海する「太平洋プロジェクト」を終え、10 月 27 日にフランス・ブルターニュ地方にある母港、ロリアンに帰港した。現在は、少なくとも 32 カ所のサンゴ礁から採取したサンゴの標本 3 万 6 千以上を元に、研究者がサンゴとその気候および環境変動への適応能力を正確に理解すべくさまざまな分析を行なっているが、特にプラスチック廃棄物の管理を改善する、森林破壊の予防で土壌を安定させてサンゴ礁への流出沈殿を予防するなどの、直ちに取るべき地域的対策を呼びかけている。なお、このプロジェクトで(タラ)号は、日本に二度寄港し、小笠原や沖縄での調査を行ったほか、寄港先の各地でワークショップなどを開催した。
	JSAF 外洋内海 60 周年記念パーティーを開催	1958 年に日本外洋帆走協会(NORC)瀬戸内海支部として設立され、その後、NORC 西内開始部に改組、1999 年の日本ヨット協会と NORC との合併以降は、日本セーリング連盟(JSAF)の外洋支部の一つとして歴史を刻んできた JSAF 外洋内海が 60 周年の節目を迎え、180 人が参加した盛大な記念式典を大阪で開催した。
11 月	AC75 テストボート進水 モノハルでの完全フォイリングを披露	2021 年開催の第 36 回アメリカズカップ、正式採用艇 AC75 のテストボートが続々進水した。イネオス・チーム UK の T5(28ft)に続き、アメリカン・マジックの Mule(38ft)がそれ。これまで VOR の IMOCA60 など、モノハルフォイラーはあったが、どれもスキミングモード(排水量を減らす)での帆走にとどまり、離水は一瞬だけだった。しかし、今回の T5 と Mule は、完全なフォイリング(離水)して帆走する姿を披露した。今後、フォイリングタックやフォイリングジャイブの姿も見られそうだ。75ft の巨大艇、AC75 での完全フォイリングも現実味を帯びてきた。
	皇太子ご夫妻、灯台 150 周年記念式典ご臨席	皇太子ご夫妻は 11 月 1 日、東京都千代田区のパレスホテル東京で、「灯台 150 周年記念式典」にご臨席された。日本初の洋式灯台「観音崎灯台」の建設が、明治元年に神奈川県横須賀市で始まってから 150 年となることを記念した式典。皇太子さまはあいさつで、灯台を維持管理してきた灯台守に触れ、「これまで過酷な環境の中で任務を果たされてきた灯台守の方々に心から敬意を表します」と述べられた。

	白石康次郎、世界一周ヨットレース「ヴァンデ・グローブ」に再挑戦を表明	海洋冒険家の白石康次郎さんと工作機械大手の DMG 森精機が 30 日、東京都内で記者会見し、外洋セーリングチームを発足させて 2020 年に開催される単独無寄港無補給での世界一周ヨットレース「ヴァンデ・グローブ」に挑戦すると発表した。艇の作製や整備のスタッフ、前回のショアスタッフに日本人若手セーラーも加わり、チームは総勢 20 人超。白石さんは 16 年の前回「ヴァンデ・グローブ」にアジア勢として初めて出場したが、約 1 カ月で棄権。態勢を整えての再挑戦へ「どれだけ走れるか楽しみ。ぜひ完走してなるべく上位で帰ってきたい」と意気込んだ。DMG 森精機によると、ワークスチームによる日本からの参戦は初(日本人参戦は前白石氏本人に次いで 2 回目)。
	女性だけのキールボートレース「伊藤園 NST ウィメンズカップ 2018」開催	1990 年代を中心に、全日本女子ヨットマッチレースや J//24 全日本女子選手権など、女子選手限定のレースが複数開催されていたが、2012 年以降初となる女性セーラーのためのキールボートレースが、葉山マリーナヨットクラブで開催された。NST(ニッポンセーリングレーシング葉山)の協力で用意された 6 艇を使用し、1 レース 40 分程度のブイ周りレースを全 3 レース実施。運営などに携わった男性セーラーからは、「各艇ともうまくて、スタートもよかった」との声が聞かれた。
	世界ジュニアサーフィン選手権で日本が金メダルを獲得	アメリカ・カリフォルニア州ハンティントンビーチで開催された「VISSLA ISA 世界ジュニアサーフィン選手権」において、日本代表の「波乗りジャパン」が今年 2 個目の団体金メダルを獲得した。今大会では上山キアヌ久里朱が金メダル、安室丈が銀を獲得するなど、出場した個人がすべてメダルを獲得する活躍を見せ、団体金メダルとなった。
	光高 3 年の鈴木義弘選手が国体 4 連覇少年男子レーザーラジアル級	福井県で開催された第 73 回国民体育大会(福井国体)のセーリング少年男子レーザーラジアル級にて山口県立光高等学校 3 年の鈴木選手が優勝し、同種目初の 4 連覇を果たした。
	世界初の IoT ルアー、「スマートルアー α」実証実験がスタート	北海道札幌市のスマートルアーは、2017 年 3 月に設立されたスタートアップ企業で、誰もが釣りを楽しめるようにするための水中環境や釣行記録の分析を軸としたサービスを展開している。同社では、内部に温度や照度、加速度などの複数のセンサーを組み込み、水中環境やルアーのアクションを計測できる世界初の IoT ルアー「スマートルアー α」の試作品を完成させ、2019 年の商品化を目指して実証実験を進めている。
	2024 年パリ五輪のセーリング競技全 10 種目が決定	世界的なヨットレースの統括組織であるワールドセーリングの年次総会において、2024 年パリ五輪セーリング競技の全 10 種目が決定。全く新しい種目として、男女混合カイトボーディングと男女混合 2 人乗りオフショアキールボートが加わった一方、1952 年から続くフィン級が五輪種目から外れることとなった。なお、各種目における使用艇種は 2019 年 5 月に決定される予定。なお、2024 年パラリンピックでの、セーリング競技復活はないことも決定している。
	ボサノバ誕生 60 周年	海にぴったりはまるムード音楽であるボサノバ。ジョアン・ジルベルト、アントニオ・カルロスジョビン、ヴィニシウス・ヂ・モライスが 1958 年に初のボサ・ノヴァ・ナンバー「思いあふれて」を発売。今年で 60 周年を迎えた。
	SailGP に参戦する日本チームメンバーが発表	フォイリングカタマランのワンデザイン艇「F50」によるワールドサーキット、SailGP に日本チームが参戦する。チーム名は「JapanSailGP Team」。COO(最高執行責任者)としてチームを牽引するのは、前 AC、ソフトバンク・チーム・ジャパン総監督・早福和彦氏。CEO(最高経営責任者)兼スキッパーに、前 AC アルテミス・レーシングのスキッパー、ネイサン・アウトリッジ、ジェネラル・マネージャーにはなんとロス・ブラックマンの名前も上がった。日本人クルーは、第 35 回アメリカズカップに挑戦した、吉田雄悟氏、笠谷勇希氏に加え、ユースアメリカズカップに参戦した高橋レオ(前・レナード)もリザーバーとして就任。これから大いにモンスターフォイリングボートを学んでいく。
12 月	〈貴帆〉(クラス 40)北田 浩、ルート・デュ・ラムに日本人初参戦&初完走	4 年に一度開催され、2018 年で 40 周年、11 回目を迎えた単独大西洋横断レース「ルート・デュ・ラム」。2018 年大会は、これまでで最多となる 123 艇を集め、11 月 4 日にフランス・ブルターニュ地方の歴史ある港町、サン・マロをスタートした。同レースは、フランス・サン・マロ〜カリブ海・グアドループ(フランス領)の 3,452 マイル、つまり、かつての帆船貿易時代のラム酒運搬の航路をトレースするもの。スタート前のレースビレッジには 12 日間で延べ 130 万人が詰めかけ、このレースの人気の高さを物語る。このレースに、北田 浩氏(54 歳、青森県出身)が日本人として初参戦、初完走を果たした。北田氏は、2016 年のトランザット完走に次ぎ、二度目の快挙となった。北田氏は、クラス 40 での参加。大きなトラブルに見舞われながらそれらを克服し、53 艇中、34 位でフィニッシュした。
計報		
2 月	東京五輪、男子セーリング金メダリストダーウオード・ノウルズ氏死去	東京五輪の男子セーリングで 2 人乗リスター級にセシル・クックと組んで出場し、金メダルを獲得したダーウオード・ノウルズ氏が、腎不全と合併症により死去した。享年 100 歳。

5月	「深重の海」で直木賞を受賞した津本陽氏が死去	和歌山市生まれ。東北大卒。会社員を経て不動産業を営みながら、関西の同人誌「VIKING」に加入。当初は私小説を書いていたが、和歌山・太地を舞台に古式捕鯨を描いた「深重(じんじゅう)の海」で1978年、直木賞を受賞した津本陽氏が死去した。
7月	ロス五輪470級代表、高木裕氏が逝去	ロサンゼルスオリンピック男子470級代表の高木裕さんが、海の日(7月13日)に逝去された(享年58歳)。高木さんは1960年7月13日、熊本県生まれ。高校時代にはみずからヨット部を創立して国体に出場、大学は福岡大学に進学し、470級で学生初の全日本チャンピオンになっている。1984年ロサンゼルスオリンピックに出場、11位という成績を収めた。その後は日本を代表するレーシングクルーザーのヘルムスマンを数多くつとめ、ケンウッドカップやシドニー・ホバートヨットレースなどの国際レースにも参加。近年は福岡県セーリング連盟の理事を務めた。病氣療養中であったが、海の日(7月13日)に帰らぬ人となった。
9月	海女文化振興へ尽力、石原義剛さん死去	海女文化の継承・啓発や、反原発運動などにも力を注いだ三重県鳥羽市立海の博物館・館長の石原義剛さんが、9月17日、多臓器不全のため81歳で亡くなった。漁村の文化振興へ、ともに歩みを進めてきた県内の関係者からは、亡くなる直前まで精力的に活動した石原さんの功績をたたえ、死を悼む声が続出した。石原さんは昨年体調を崩したが、亡くなる直前まで海の博物館の館長としての役目を果たした。
10月	「光るタンパク質」をクラゲから発見 ノーベル化学賞の下村脩氏、死去	生命科学の研究に不可欠な緑色に光るタンパク質(GFP)をクラゲから発見→トルツメし、2008年にノーベル化学賞を受賞した長崎医科大学薬学専門部(現長崎大学薬学部)出身で米ボストン大名誉教授の下村脩(しもむら・おさむ)氏が19日午前6時15分、老衰のため長崎市で死去した。90歳。葬儀は近親者で行った。喪主は妻明美(あけみ)さん。→トルツメ
12月	重由美子さんが死去 セーリングで日本初のメダリスト	1996年アトランタ五輪セーリング女子470級で銀メダルを獲得し、同競技の日本勢初のメダリストとなった重由美子(しげ・ゆみこ)さんが9日午前3時15分、佐賀県唐津市の病院で死去した。53歳。唐津市出身。2人乗りヨットの舵を取るスキッパーとして活躍し、アトランタ五輪では木下アリーシアさんと組んで快挙を果たした。五輪は3大会連続出場、92年バルセロナ大会は5位、2000年シドニー大会は8位だった。近年は唐津市の佐賀県ヨットハーバーで後進の指導などに当たっていた。